NHK鹿児島ニュース（令和五年　三月一日）

いいたて希望の里学園との交流の話題が紹介されました

出水市の小学生が福島県飯舘村の学校とオンラインで交流会

東日本大震災から今月11日で12年となるのを前に、出水市の小学生が福島県飯舘村の学校の児童とオンラインで交流会を開きました。交流会は、震災後、被災地の学校に支援物資を送る活動を続けてきた出水市の下水流小学校で開かれ、4年生36人が参加しました。

オンラインでつないだのは、福島県飯舘村に3年前に開校した義務教育学校「いいたて希望の里学園」の3年生と4年生12人です。テーマはお互いの地域と食の紹介で、出水市の小学生たちは自分たちも植え付けや収穫に関わり、去年末に飯舘村に送ったサトウキビと黒糖について話をしました。一方、飯舘村の児童たちは、餅を寒風にさらし凍らせ乾燥させて作る「しみ餅」について発表しました。

参加した児童は、全員が東日本大震災のあとに生まれた子どもたちで、最後に飯舘村の学校の先生が、東日本大震災による原発事故ですべての村民が避難するなど大きな影響があったものの、今は住民の一部も戻り復興に取り組んでいることを説明しました。

参加した女子児童は「大きな地震があったのに今は元気で学校に来てみんなと遊んでいてすごいなと思いました」と話していました。

下水流小学校の井手口勉校長は「お互いを思いやる気持ちや当時を忘れないという気持ちを持ち続けるために、飯舘村の学校と交流を続けることは大事だと思います」と話していました。